箱根町の財政を支える新たな柱の提案

伊集ゼミ3年

＜はじめに＞

箱根町は観光収入が多く歳入としては多くの額を得ているが、消防費や衛生費、公共施設の老朽化などの支出により歳出も多く、財政は苦しい状況である。この状況から脱却するために私たちが考えたのが、新たな税「観光施設税」の提案である。新たな税の導入による効果、課題についてまとめる。

＜箱根町の財源不足＞

箱根町は歳入の大幅な改善は見込まれない一方で、歳出は増加していくと考えられている。中期的（2024年度から2029年度）には年平均で4億6300万円の不足が見込まれる。観光業が盛んであるこの町は、それゆえに観光関連支出に起因する支出が町の財政を厳しいものへとしている。

中期財政見通し

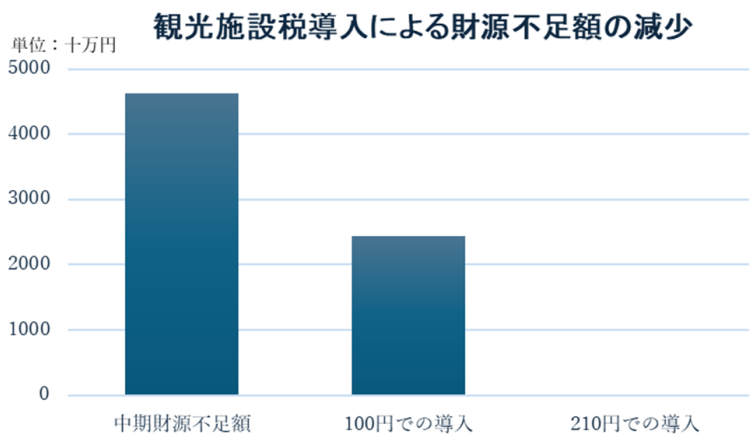
区分	2024年	2025年	2026年	2028年	2029年	平均
歳入	11651	11189	10652	10037	11427	10991
歳出	11967	11781	11019	10410	12097	11455
収支	▲315	▲591	▲367	▲373	▲669	▲463

＜観光施設税＞

観光施設税とは、箱根町の観光施設への入場行為に対して課税するというものである。観光関連支出が町の財政を厳しいものにしていることに鑑みて、箱根町に観光で訪れる観光客を広く対象とする必要性を満たすため、「観光施設」への入場に対して課税を行うことが適切であると考えた。箱根調査班の推定では、一人当たり100円の課税を行うことで、中期的な財源不足額4億6300万円を約4割削減することができると見込んでいる。

観光施設の入場回数の推定

	2019	2020	2021	2022
博物館・美術館（18施設）	2094180	536652	1322868	2004168
箱根関所	280017	11690	127024	198174
箱根ジオミュージアム	56780	68735	81724	123648
森のふれあい館	12233	9017	11730	12206
動植物園（3施設）	235107	158469	179253	197775
箱根湿生花園	78369	52823	59751	65925
合計	2329287	695121	1502121	2201943



＜課題＞

観光施設税については、税制導入による影響の分析や観光施設側との協力体制の確立など、最終的な実現に向けて行うべきことが残されているため、様々な議論を重ね、アップデートしていく必要がある。

横浜国立大学 経済学部